

ラグビーワールドカップ2019™における都のセキュリティ・医療対策について

概要

- 大会時のセキュリティ・医療対策については、組織委員会が試合会場内を、都が試合会場周辺及び最寄り駅から試合会場までの観客動線等をそれぞれ役割分担し、両者が連携・協力して取り組む。
- 都は、各種事件事故を未然に防止し、来場者の安全確保と大会の円滑な運営を行うため、組織委員会、警察、消防等関係機関と協議し、自主警備、医療救護及び危機管理を主な内容とする警備計画を策定。

主な取組

項目	内 容
自主警備	○ 地点ごとの混雑状況の見込みを踏まえ、効果的な雑踏警備を実施 ○ 警視庁と緊密に連携した交通規制、案内誘導により円滑な移動を確保 ○ モバイルカメラを用いて現場状況を本部で迅速に把握し、事案に対応 ○ パイプ柵等により動線分離や乱横断防止を行い、事故を未然に防止 ○ 外国語対応が可能な警備員を配置し、海外からの来場者に適切に対応
医療救護	○ 武蔵野の森総合スポーツプラザ内に救護スペースを設置 ○ 翻訳アプリ等を活用し、海外からの来場者の症状を的確に把握 ○ 東京消防庁現地警戒本部と連携し、迅速な救急搬送を実施
危機管理	○ 巡回による警戒、車両突入防止資機材の設置等によりテロを防止 ○ 会場が被災した場合は、施設北側の広域避難場所等に円滑に誘導 ○ 電車遅延等の発生時には、迅速な情報収集、発信により混乱を抑制

今後のスケジュール

- 7月以降 関係機関と個々の事例に応じたシミュレーションを実施
- 9月20日 開幕

